

No. 49 pp. 752-799

15-I-1987

# 寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI: Saitama Kontyū Danwakai



表 紙

ウラミスジシジミ(裏面)

1981-Ⅶ-29

埼玉県秩父郡大滝村中津川

採集;撮影とも 碓井 徹

本誌(33):311で報告した  
埼玉県での初記録の個体。  
そしていまだ唯一の個体。  
この個体が採集されて以来、  
毎年、中津川で採集が試みら  
れているが、2頭目が採集さ  
れたという話を耳にしない。

ぜひ、今年こそ！

## 西武線沿線のカワラスズについて

石澤 直也

西武線沿線のカワラスズについて調査したのでその結果を報告する。

### 1. 分布

調査期間は'85年10月1日から11月27日までで、調査は西武線の各駅のホームでカワラスズの鳴き声を聞いて生息の有無を確認する方法をとった。西武池袋線は西武池袋駅から、元加治まで(稲荷山公園、入間市、仏子は未調査)、西武新宿線は、田無・本川越間、国分寺線は国分寺・東村山間、多摩湖線は国分寺、荻山、西武遊園地間、狭山湖線は西所沢・西武球場前間を調査した。以下は各線でカワラスズの生息を確認できた駅名で、横に付した●、○は生息の多(●)少(○)を表す。

線 名	駅 名	多少	駅 の 状 況
西武池袋線	秋津	●	ホームは上下線の2本
	所沢	●	新宿線との交点で引き込み線多数あり、砂利は古い
	西所沢	○	西武球場前への分岐点でホームが多い
西武新宿線	久米川	○	上下線の2本
	入曽	○	引き込み線あり、砂利が古い
	狭山市	○	上下線の2本
国分寺線	国分寺	●	国鉄中央線と接し、引き込み線多数あり、砂利は古い
	小川	●	西武拝島線との交点で引き込み線あり、砂利は古い
多摩湖線	荻山	○	西武拝島線との分岐点でホームは3本
狭山湖線	西武球場前	●	ホームは6本あるが4本は使用頻度が少なく、他の駅と比べ生息数は圧倒的に多い

調査では、分岐点に当たる駅ではその駅の前後500mまでを調査の対象としたところ(東村山駅、小川駅、所沢駅、西所沢駅等)もある。生息が確認出来なかった駅は、所沢より東(都心寄り)では、概して人口が密集していて、開発が進んでいる所が大部分であった。また大きな街道と交差する踏み切りのある所や、砂利の敷設していない鉄橋のある線ではそれ以奥(多摩湖線八坂駅以奥)で生息は確認されなかった。踏み切りは、自動車の往来が激しく、これを越えるのは体の小さいカワラスズには容易な事ではないと想像される。

分布図から判るように、分布は余り連続してはいない。しかし、おおまかに見て、国分寺と狭山市を結ぶ線の周辺に分布していることがわかる。

カワラスズの生息域は、河原、線路の砂利の間、道路の端の砂利の間等であるが、ここ西武線沿線では、元加治、武蔵横手以遠で、それぞれ入間川、高麗川と河原を接している。ところが、小手指以遠では元加治も含め狭山ヶ丘、武蔵藤沢等引き込み線のある駅または入間川に接する元加治駅でも生息は確認出来なかった。

また線路の砂利についても新旧を調べたが、概して新しい砂利(碎石)の所は生息していないことが多い。これは、最近西武鉄道が電車の運行の安全を期すため道床を全面的に改修し、道床に多量の碎石を盛る工事を施したことによるものだった。(これは砂利の内部の保温効果は大きくなかった。)砂利については西武鉄道では、山梨県の中央線酒折の採石場から、(国鉄では中央線初狩の採石場から)運んでいるとの事だった。もしこれらの砂利に混じって分布を広げたものならば、新しい砂利の所でも多くの駅で生息を確認できた筈であるが、それが無いところをみると碎石への混入による分布は考えなくともよさそうに思える。河砂利については、昭和49年7月の建設省の指導で河砂利の採取が一部で禁止になり、それ以前では認められていたので線路の砂利に使った際、河砂利へカワラスズが混入して分布を広げたとも考えられる。しかし、鉄道敷設について『日本国有鉄道100年史』を調べても砂利の採取地については触れていない。他に自力分布の場合はどうかと考え、鉄道の敷設年代を調べてみたので次に掲げる。

国鉄中央線(敷設当時甲武鉄道と呼称)	新宿・八王子間開通	明治22年 8月11日
西武国分寺線(敷設当時川越鉄道と呼称)	国分寺・東村山間	明治27年12月
	東村山・本川越間開通(現在西武新宿線)	〃 28年 3月21日
西武池袋線(敷設当時武蔵野鉄道と呼称)	池袋・飯能間開通	大正 4年 4月14日
	飯能・吾野間開通	昭和 4年 9月 9日
	吾野・西武秩父間開通	〃 44年10月14日
西武新宿線	東村山・高田馬場間開通	〃 3年 4月15日
	高田馬場・西武新宿間	〃 27年 3月25日
	小平・萩山間開通	〃 3年11月 2日
	萩山・小川間	〃 37年 9月 1日
多摩湖線	国分寺・萩山間開通(国分寺駅では国鉄中央線とは 段差あり)	〃 3年 4月 6日
	萩山・西武遊園地間	〃 5年 1月23日
狭山湖線	西所沢・西武球場前間開通	〃 4年 5月 1日
国鉄中央線との接点に当たる国分寺駅での生息状況を調べたところ、小金井駅方面、西国分寺駅方面にも生息し、更に西武国分寺線へ入り分岐点から500mのところまで生息しているのが確認できた。中央線の他の駅では、小金井、西国分寺、国立、立川でも、生息が		

が確認された。特に中央線が立川の西で多摩川を渡っている事は考慮に値する。

カワラスズは、砂利への混入によって分布を広げたものであれ、河川の堤防から線路伝いに自力で分布を拡大していったものであれ、鉄道敷設という人為的なものが分布拡大の要因となっている事は否定できない。いずれにしろ新しく線が敷設されるにつれ、それらの線に分布を広げていき、都心部方面に進出したものは、その後沿線の開発が進み、線路の改修や駅舎の建て替えで住処を後退させ現在の状態に落ち着いたのではないだろうか。引き込み線のある(引き込み線では線路の改修、砂利の補給は比較的少ない)駅にカワラスズが多い事がそれを証明してはいないだろうか。またこの事から保線が行き届いている所では生息が抑えられるとも言え、保線の具合がカワラスズの今後の分布に大きく影響していくと思われる。

## 2. 生 態

カワラスズは、夜間も良く鳴いているのが聞かれるが、鳴き止むことはあるのかと疑問に思い調べてみた。調査は1985年11月15日(夜間晴れ)狭山湖線(単線)の下山口駅と西武球場駅との間で東西に走る所(中氷川神社南側)の踏み切りの西側150mの間で実施し、午後8時40分から30分毎に、踏み切りの側で目の高さの気温、線路の砂利の表面温度、砂利の内部温度を計り、その時点でのカワラスズの鳴きを確認することにした。

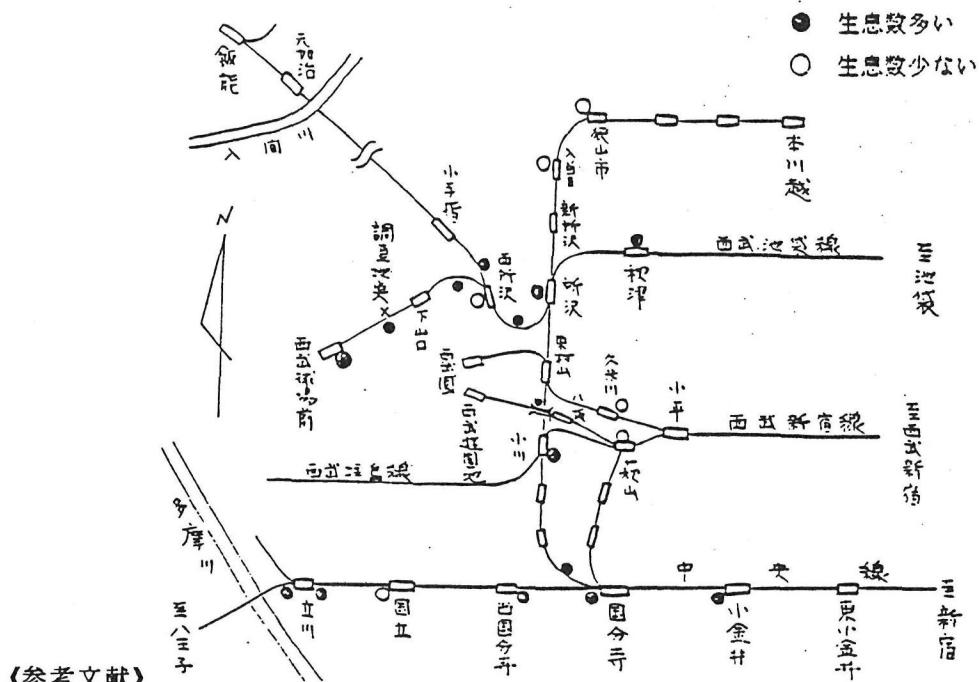
時 刻	気 温	表面温度	内部温度	鳴 い て いる 状 況
8:40PM	6.0°C	5.5°C	8.3°C	多い
9:10PM	5.4°C	5.1°C	8.0°C	"
9:40PM	5.2°C	4.1°C	7.8°C	"
10:10PM	3.9°C	3.9°C	7.2°C	3ヶ所に減る
10:40PM	3.8°C	3.2°C	7.0°C	"
11:10PM	3.7°C	2.0°C	6.8°C	1ヶ所に減る
11:38PM	2.6°C	1.8°C	6.1°C	鳴き止む

11時38分に終電の回送電車が通過した直後に鳴き止んだが、この調査区間の東300mの所ではその後も鳴き続けていた個体があった。という事は、線路の道床の砂利の内部の温度は場所によっても違ひ条件の良い所では温度の降下が遅いのでバラツキができるものと考えられる。上記の結果から鳴き止む目安としては8°C 前後と推定される。

ついでに鳴き始めるのは何度かもその翌日調査してみたところ、11月16日は朝のうち晴れで9時過ぎから薄曇りで時々日が差す程度だったが、午前10時35分、気温11.1°C、表面温度14.2°C、内部温度9.1°Cで鳴き始めた。なお、このおなじ日、多摩川の南に位置

する京王線の聖跡桜ヶ丘駅近くの線路の砂利の内部温度を計ったら、午後3時10分で13.8°C あったがカワラスズは聞かれなかった。多摩動物園の昆虫園の荻野氏に聞いたところでは当駅では11月上旬頃までは大体聞かれるということだった。それで調査地点のカワラスズはいつまで聞かれるか、その後も継続して観察したところ、11月23日まで聞くことができたが、11月24日に雨が降り、その後の天気の回復はあったが、3日たっても砂利は濡れたままで内部温度は5.5°C までしか上昇せず、ついに聞くことはできなかった。観察中は、11月13日から19日までは朝の最低気温が連日0°C 近くまで低下したが、日中は晴天に恵まれ、線路の砂利の保温効果でカワラスズも生き残ったものと思う。線路の大改修も生き残ったカワラスズにとっては大いに寄与した事になる。

## 分布図



## 〔参考文献〕

- 松浦一郎、鳴く虫の観察と研究 グリーンブックス 103
- 松浦一郎、鳴く虫雑記 全集日本動物誌 19
- 小林正明、信州の秋に鳴く虫とそのなかま
- 小林正明、日本の秋の虫
- 正木進三、昆虫の生活史と進化 中公新書
- 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第15集 1983
- 日本国有鉄道100年史

## 宿泊談話会で採集した甲虫類の記録

小田 博

昨年度（1985）の宿泊談話会は去る8月10～11日長野県南佐久郡川上村梓山を中心に行われたが、その際採集した甲虫類を記録しておく。なお、ハムシ科を同定してくださった大野正男先生に厚くお礼申し上げます。

### 《オサムシ科 Carabidae》

1. フタツメゴミムシ *Lebidia bioculata* MORAWITZ  
【梓山】1頭, 10日 [灯火].
2. オオヨツアナアトキリゴミムシ *Parena perforata* (BATES)  
【梓山】1頭, 10日 [灯火].

### 《ハネカクシ科 Staphylinidae》

3. ハイイロハネカクシ *Eucibdelus japonicus* SHARP  
【三国峠】1頭, 10日 [佐々木和男氏採集]; 【梓山】1頭, 10日 [灯火].

### 《コガネムシ科 Scarabaeidae》

4. キンスジコガネ *Mimela holoserica* (FABRICIUS)  
【梓山】1頭, 10日 [灯火; 小田 晶採集].

### 《タマムシ科 Buprestidae》

5. シロオビナカボソタマムシ *Coraebus quadriundulatus* MOTSCHULSKY  
【三国峠】1頭, 10日.

### 《ジョウカイボン科 Cantharidae》

6. ミヤマクビボソジョウカイ *Podabrus lictorius* LEWIS  
【梓山】1頭, 10日 [灯火].

## 《カミキリモドキ科 Oedemeridae》

7. スジカミキリモドキ *Chrysarthria viatica* LEWIS

【三国峠】 2頭, 10日.

## 《カミキリムシ科 Cerambycidae》

8. ニンフホソハナカミキリ *Strangaliella nymphula* (BATES)

【梓山】 2頭, 10日 [佐々木和男氏採集].

9. ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata* (MOTSCHULSKY)

【戦場ヶ原】 1頭, 11日.

10. フタスジハナカミキリ *Leptura vicaria* BATES

【梓山】 1頭, 10日.

11. シラケトラカミキリ *Clytus melaenus* BATES

【梓山】 1頭, 10日.

12. ヒメヒゲナガカミキリ *Monochamus subfasciatus* (BATES)

【戦場ヶ原】 1頭, 11日.

13. ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella* (BATES)

【三国峠】 1頭, 10日 [小田 晶採集].

## 《ハムシ科 Chrysomelidae》

14. バラルリツツハムシ *Cryptocephalus approximatus* BAILY

【三国峠】 2頭, 10日.

15. セスジツツハムシ *Cryptocephalus obliquostriatus* MOTSCHULSKY

【三国峠】 1頭, 10日.

16. ブドウサルハムシ *Bromius obscurus* (LINNÉ)

【三国峠】 1頭, 10日; 【梓山】 1頭, 10日.

17. エノキハムシ *Pyrrhalta tibialis* (BAILY)

【梓山】 1頭, 10日 [灯火; 小田 晶採集].

18. ブチヒゲケブカハムシ *Pyrrhalta annulicornis* (BAILY)

【梓山】 1頭, 10日 [灯火].

19. サンゴジュハムシ *Pyrrhalta humeralis* (COURTENAY)

【梓山】 1頭, 10日 [灯火].

## 《オトシブミ科 Attelabidae》

20. ナラルリオトシブミ *Euops phaedonia* SHARP

【三国峠】 1頭, 10日.

## 《ゾウムシ科 Curculionidae》

21. オオアオゾウムシ *Chlorophanus grandis* ROELOFS

【梓山】 1頭, 10日 [小田 晶採集].

22. シラホシヒメゾウムシ *Baris dispilota* (SOLSKY)

【三国峠】 2頭, 10日; 【梓山】 3頭, 10日; 【戦場ヶ原】 1頭, 11日.

(おだ ひろし 〒354 富士見市上沢 3-6-15 )

☆『埼玉県動物誌に追加する甲虫類(Ⅱ)』[本誌(45):612-615]の訂正

小田 博

No.10 のルリバネナガハムシ *Liroetis coeruleipennis* WEISE はクワハムシ *Fleutiauxia armata* (BALY) の誤りであることが判明したので、ここに訂正しあわびする。ルリバネナガハムシは琵琶湖以西に産し関東からは記録がない種であるから、念のため同定しなおすよう大野正男先生よりご指摘をいただいた。標本を保管されている佐々木和男氏に急遽連絡をとったところ、同氏はわざわざ標本を大野先生まで持参、上記のように確認していただいた次第である。

また、大野先生宅をお訪ねした際、再度検討するようご教示いただいたハムシ類のうち、No.13 のルリウスバハムシは秩父市羊山産のものがクロウスバハムシ *Luperus moorii*、大滝村矢竹沢および甲武信岳産のものがヒゲナガウスバハムシ *Stenoluperus nipponensis*、No.18 のクロトゲハムシはクロルリトゲハムシ *Rhadinosa nigrocyanea* のそれぞれ誤りと判明したので併せて訂正しあわびする。

同定の労を取られ、貴重なご意見をいただいた大野正男先生に心よりお礼申し上げます。また、標本に関してお手数を煩わした佐々木和男氏に謝意を表します。

(おだ ひろし 〒354 富士見市上沢 3-6-15 )

# タマノカンアオイによる ヒメギフチョウ飼育の一例

平山 精孝

ヒメギフチョウ *Luehdorfia puziloi* は自然状態ではオクエゾサイシン、ウスバサイシンを食草としており稀にカンアオイ属のコシノカンアオイ、ヒメカンアオイ、ミヤマアオイに産卵することが知られている。<sup>1)</sup> また、飼育条件下ではヒメカンアオイ、ランヨウアオイなどで充分に成育することも知られている。<sup>2) 3)</sup> 筆者は今回、山梨県須玉町産のヒメギフチョウについてタマノカンアオイで飼育を試みたので、その結果について報告する。

## 1) 飼育材料

山梨県須玉町産ヒメギフチョウ 25卵(野外採卵)

上記の25卵は、14卵、9卵、2卵の3卵塊より成る。

## 2) 飼育容器

飼育容器は卵から1令幼虫の期間を各卵塊毎に70φ×25hのプラシャーレを使用。

2令以降は幼虫を一匹ずつに分離し、90φ×30hのプラシャーレを使用した。

## 3) 飼育場所

飼育は埼玉県川口市の自宅の南西向きの室内で行った。室内であるため全く陽があたることはないが、飼育期間中は午後11時頃までは必ず室内照明を点灯していた。幼虫期間の飼育場所の気温の変化を図1に示す。

## 4) 飼育期間

昭和61年5月26日に孵化を開始し、6月22日に全幼虫が蛹化した。

## 5) 飼育用食草

1卵塊14卵にはウスバサイシン(卵採集時に同地域より採集したもの)

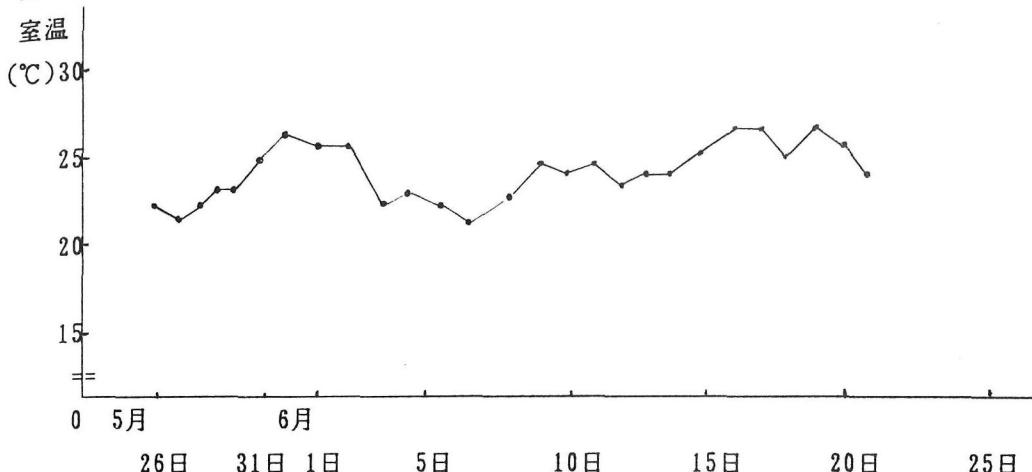
1卵塊9卵にはタマノカンアオイ(孵化前に神奈川県川崎市登戸にて採集したもの)

1卵塊2卵にはヒメカンアオイ(自宅で植栽したもの、岐阜県産)

以上を、それぞれ与えた。

食草の交換、補給は4令までは1日1回(夕)、5令では1日2回(朝、夕)の頻度で行った。

図1. ヒメギフチョウ飼育場所の気温変化（室温は毎日、午後9時測定の値）



## 6) 飼育結果

表1. 2. 3には各食草での成長の結果を示した。

ウスバサイシンの摂食状況はもちろん良好であり全く問題なく成長した。3令までは全く同一の成長を示したが、4令、5令で若干成長にずれが生じたが、有意差があるとは考えられない。蛹体長も18~19L×8Wと比較的大きくそろっている。「ギフチョウとヒメギフチョウ」(藤沢他)<sup>10</sup>には幼虫の成長曲線が示されているが、これによればヒメギフチョウ蛹化時の体長が約19Lであり、今回の飼育の場合には幼虫期間が21.2日と著しく短いにもかかわらず、良好な成長を示しているものと考えられる。表4.は同じく「ギフチョウとヒメギフチョウ」から引用したものであるが、幼虫期間は23~35日であり、これに比較して今回ウスバサイシンで飼育したものは21~22日と著しく短い。これは同誌にも記載されているように飼育環境、特に温度の影響によるものと考えられる。飼育環境における温度は図1.に示した。タマノカンアオイへの摂食状況も良好で蛹化まで充分に飼育することができる。4令5令で成長に差が現れ9幼虫2幼はあきらかに成長がおくれた。幼虫期間は平均で23.8日とウスバサイシンで飼育したものの21.2日と比較して明らかに長くなっている。飼育は同一環境でおこなったため、これは温度等の飼育条件によるものではなく、明らかに食草の違いによるものと考えられる。また、蛹の体長についても平均で16.9L×7.3Wとウスバサイシン飼育のものと比べて明らかに小さくなっている。このように食草による相違が生じたのは一概にヒメギフチョウ幼虫の食草の種類に対する好き嫌いによるものだけとも考えにくい。今回の飼育に使用したタマノカンアオイは5月下旬に神奈川県川崎市登戸で採集したものであり、ウスバサ

表1. ヒメギフチョウの飼育結果（ウスバサイシン）

No.	孵化日	1令	2令	3令	4令	5令	幼虫期	蛹化日	食草	蛹体長(mm) L × W
		期間	期間	期間	期間	期間	合計			
1	S61.5.26	4日	2日	2日	5日	8日	21日	S61.6.16	す	19 × 8
2	"	"	"	"	"	"	"	"	べ	18 × 8
3	"	"	"	"	"	9日	22日	S61.6.17	て	"
4	"	"	"	"	"	8日	21日	S61.6.16	ウ	"
5	"	"	"	"	"	"	"	"	ス	19 × 8
6	"	"	"	"	"	"	"	"	バ	18 × 8
7	"	"	"	"	"	"	"	"	サ	"
8	"	"	"	"	"	9日	22日	S61.6.17	イ	19 × 8
9	"	"	"	"	4日	"	21日	S61.6.16	シ	18 × 8
10	"	"	"	"	"	"	"	"	ン	19 × 8
11	"	"	"	"	"	"	"	"		18 × 8
12	"	"	"	"	"	"	"	"		19 × 8
13	"	"	"	"	"	"	"	"		"
14	"	"	"	"	"	"	"	"		"
平均	—	4日	2日	2日	4.6日	8.6日	21.2日	—		18.5 × 8

表2. ヒメギフチョウの飼育結果（タマノカンアオイ）

No.	孵化日	1令	2令	3令	4令	5令	幼虫期	蛹化日	食草	蛹体長(mm) L × W
		期間	期間	期間	期間	期間	合計			
15	S61.5.27	3日	3日	3日	5日	10日	24日	S61.6.20	タ	17 × 7
16	"	"	"	"	"	9日	23日	S61.6.19	マ	"
17	"	"	"	"	"	"	"	"	ノ	"
18	"	"	"	"	"	"	"	"	カ	"
19	"	"	"	"	"	"	"	"	ン	17 × 8
20	"	"	"	"	"	"	"	"	ア	"
21	"	"	"	"	4日	10日	"	"	オ	"
22	"	"	"	"	6日	11日	26日	S61.6.22	イ	16 × 7
23	"	"	"	"	5日	12日	26日	"		17 × 7
平均	—	3日	3日	3日	5日	9.8日	23.8日	—		16.9 × 7.3

表3. ヒメギフチョウの飼育結果（ヒメカンアオイ \*注1）

No.	孵化日	1令	2令	3令	4令	5令	幼虫期	蛹化日	食草	蛹体長(mm)
		期間	期間	期間	期間	期間	合計			
24	S61.5.28	4日	2日	2日	4日	9日	21日	S61.6.18		18 × 8
25	"	"	"	"	"	"	"	"		"
平均	-	4日	2日	2日	4日	9日	21日	-		18 × 8

注1. ウスバサイシン⇒タマノカンアオイ 本文参照

表4. ヒメギフチョウの幼虫期間<sup>(a)</sup>

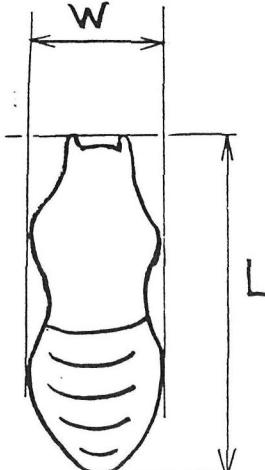
個体名	孵化日	1令	2令	3令	4令	5令	幼虫期	蛹化日
		期間	期間	期間	期間	期間	合計	
A	5月13日	5日	5日	4日	6日	13日	33日	6月15日
B	5月16日	4日	5日	7日	6日	13日	35日	6月20日
C	5月20日	3日	3日	4日	5日	10日	25日	6月14日
D	5月21日	3日	3日	4日	5日	9日	24日	6月14日
E	5月25日	3日	3日	7日	6日	13日	32日	6月26日
F	6月8日	3日	6日	3日	4日	7日	23日	7月1日

小池(1955) ヒメギフチョウの観察・採集と飼育より

表中しは蛹長、

Wは蛹幅

(左図参照)



イシンと比較してかなり葉は硬く、一見して幼虫の摂食状態は全く問題がなさそうであったがこのような葉の硬化状態が大きく幼虫の成長状態に影響を及ぼしていると考えられる。

No.24、No.25の♂幼には孵化直後ヒメカンアオイを与えたが、全く摂食せずシャーレ内を歩き始めたために、ただちにウスバサイシンに切り替えた。そのままウスバサイシンで飼育を続け4令時後半に再びヒメカンアオイを与えてみた。このヒメカンアオイは自宅で植栽したもので3月末に葉が出だしたもので葉は硬化しており、孵化直後の幼虫では食べることができなかつたものと考えたためである。4令幼虫もヒメカンアオイの葉は全く摂食せず、ただシャーレ内を歩きまわるのみであったが注目すべきことはヒメカンアオイの葉は全く食べないが茎はある程度食べるということであった。また、この4令幼虫に自宅で植栽し同じく4月末に葉が出たタマノカンアオイを与えたところ、これは非常に良く食べた。葉の硬化度はヒメカンアオイと同程度と思われた。ヒメカンアオイについては今後、伸展したばかりのやわらかい葉を与えて、この好嫌度を確認する必要があると考えられるが、ヒメカンアオイの硬化した葉は極端に嫌うようである。また、筆者は山形県上山市産のヒメギフチョウの1令および3令幼虫にも同様に植栽したヒメカンアオイの葉(今回と同程度に硬化していた。)を与えたことがあったが、この時も全く摂食することはなかった。

以上、今回の飼育結果より山梨県須玉町産のヒメギフチョウはタマノカンアオイにより充分に飼育成長させうることがわかった。ただし、自然状態での食草でないこと、あるいは葉の硬化度の影響によりウスバサイシン飼育と比較して若干の成長差が生じる。また、ヒメカンアオイの硬化した葉では、全く飼育することはできない。ヒメカンアオイについては伸展したばかりのやわらかい葉で飼育して好嫌度を確認する必要があろう。また、ギフチョウ属の食草の種類による好嫌度が飼育に用いた葉の硬化度に左右されるならば、食草の好嫌度の調査には飼育し使用する食草の発芽期などを極力そろえることにより調査する必要があろう。

#### (参考文献)

- (1) 福田晴夫他(1982) 原色日本蝶類生態図鑑(I)、保育社、大阪。
- (2) 宇野正紘 (1984) 蝶の飼育法、ニューサイエンス社、東京。
- (3) 猪又敏男 (1985) 月刊むし (173) 43.
- (4) 藤沢正平他(1964) 長野県の昆虫 ギフチョウとヒメギフチョウ、信濃教育会出版部、長野。

(ひらやま きよたか 画333 埼玉県川口市安行領根岸1826-18 三井鉱山アパート112号)

## ギフチョウ（イエローバンド）の飼育

吉田 文作

長野県白馬村一帯は昔からギフチョウの産地として知られている。私は1980年5月25日この地方を訪れ、白馬村深空にてギフチョウ♀（ノーマル）を採集しました。そしてこの母蝶より採卵し、1986年4月（F5）まで累代飼育を重ねましたが、F6はついに実現できず、終止符ををうつことになりました。この間、飼育4年目（F3）にやっとイエローバンドが出現したり、今年（1986年）には近親交配の掟により脱皮できずに死亡するなど、自然の神秘を垣間見ることができました。ここにこの7年間の飼育記録を報告しておきます。

・1980年5月25日・

長野県白馬村深空の別荘地にて♂♀を採集しました。この採集した個体はすべてノーマルで、イエローバンドはいませんでした。この母蝶を自宅に持ち帰り産卵を試み、ヒメカンアオイ *Heterotropa takaoi* F.Maekawaで180産卵し、飼育には、埼玉県内に広く自生しているカントウカンアオイ *Heterotropa nipponica* F.Maekawaを食草としました。このカントウカンアオイは、白馬のギフチョウが食草としているミヤマアオイ *Heterotropa fauriei* var.*nakaii* F.Maekawaに比べると葉も大きく量も多いので飼育には最適でした。その結果この年180卵のうち165個体が蛹化しました。

・1981年3月下旬～4月上旬・

昨年飼育した165個の蛹のうち、154個体が羽化に成功しました。（なお羽化したものの翅が完全にのびないものが4～5頭ありました。）イエローバンドを期待した訳でありますか、羽化した個体はすべてノーマルがありました。この個体のうちから6ペアを交尾させ、252卵採卵しました。そして234個体蛹化させ、翌年の羽化を待ちました。

・1982年3月下旬～4月上旬・

昨年飼育した234個の蛹のうち215の個体が羽化しました。（昨年同様やはり翅が完全にのびきらないものが9頭おりました。）これだけの個体が羽化したものイエローバンドは1頭も羽化しませんでした。この年も7ペアをハンドペアリングで交尾させ、224卵を採卵しました。なお、蛹化したのは207頭でした。

## ・1983年3月下旬～4月上旬・

昨年蛹化した207頭のうち、成虫になったのは185頭でした。(当然羽化しても翅がないのが7頭ばかりおりました。)やはりイエローバンドは1頭もおりませんでした。この時イエローバンドはノーマル同士では生まれないのではないかと思いました。この年は、6ペアより約240卵程採卵し200程の蛹をつくりました。

## ・1984年3月下旬～4月上旬・

この年、成虫に羽化したものは190程ありました。そしてその中にはイエローバンドが含まれており、4年目にしてやっとイエローバンドが出現した訳であります。この年に羽化したイエローバンドは♂9.♀7でありました。なぜ4年目にイエローバンドが出現したのか、私の知識ではわかりませんが、近親の交配の累代により劣性の遺伝が強まったようにも思われます。しかし、1980年5月25日に採集した同僚は、翌年イエローバンドが出ていたので、おもしろいものです。この年は12ペアを交尾させ、320卵産卵させました。蛹化は296頭でした。

## ・1985年3月下旬～4月上旬・

昨年蛹化した296の蛹のうち265羽化し、イエローバンドも♂12.♀7羽化しました。昨年あたりから交尾能力が低下しなかなか交尾しなくなりました。今年は12ペアを交尾させましたが、190卵程にとどまり、168個が蛹化しただけでした。

◎なおこの年は、イエローバンド同士を交配させましたが、産卵には至りませんでした。

◎またこの年羽化したギフチョウ(白馬村のノーマル)と、長野県産のヒメギフチョウを交配させ58卵産卵し、孵化させウスバサイシンで飼育したものの、2～3令でほとんど死亡、5令になったものは5頭でしたが、それもすぐ死亡、蛹化には至りませんでした。これは累代飼育を重ねた結果、かなり弱くなっていたものと思われます。

## ・1986年3月下旬～4月上旬・

羽化した168個体のうち、イエローバンドは♂7.♀9でありました。今年は18ペアの交尾を試みましたが、交尾したのはわずか4ペアだけで、しかも産卵したのはわずか2卵塊28卵でした。これより孵化した幼虫は2令ですべて死亡してしまった、累代飼育もついに終止符をうつことになりました。

## ・おわりに・

ギフチョウは“春の女神”と言われているとおり、春の野山にふさわしい蝶です。毎年ギフチョウのシーズンになると有名な産地に多数の人が押し掛け、社会問題になっているところもあるようですが、蝶は飼育することにより1♀より多数の個体を得ることもでき、さらに生態の研究、放蝶(埼玉県でギフチョウを放すなど、生態系を

1987年1月

寄せ蛾記49号

無視した放蝶はまずいが)もでき楽しいものです。

以上、7年間の累代の飼育記録を報告しておきますが、何かの参考になれば幸いです。

( よしだ ぶんさく 画360 熊谷市三ヶ尻 2849-1 )

## 川越産セセリチョウ幼虫メモ

原 聖樹

1985年10月20日午後(曇り)、川越市上小ヶ谷においてセセリチョウ幼虫4種を見いだし写真撮影した。

### 1. ギンイチモンジセセリ

終令2exs. 亜終令3exs. [食草はススキ]、終令1ex. [ヨシ]。いずれも、食草の葉を内側に巻いた巣内葉表に休止中のもの。頭部はススキの場合は葉の基部を向き、ヨシでは葉先を向いていた。

### 2. コチャバネセセリ

終令1ex. [アズマネザサ]。食草の葉2枚を綴り合わせた巣内の下側葉表に頭部を葉の基部に向けて休止。

### 3. オオチャバネセセリ

若令1ex. [アズマネザサ]。食草の葉先を内側へ巻いた巣内の葉先に休止。頭部は葉基部向き。

### 4. ミヤマチャバネセセリ

終令7exs. (うち1ex. は死亡個体) 亜終令1ex. [ススキ]、終令1ex. [ヨシ]。死亡個体のみ食草の葉(中央部)を外側へ巻いた巣内の葉裏に休止、他は内側へ巻いた巣内葉表に休止。いずれも、頭部は葉の基部へ向いていた。

その他、同地にはキアゲハ終令幼虫1ex. [ニンジン茎上]・キチョウ♂・モンシロチョウ♂♂♀・ウラナミシジミ♂♂♀が見られた。

( はら せいき 〒220-02 神奈川県津久井郡津久井町中野 617 北相寮 )

## 月山々麓、8月上旬の蛾類

市川 和夫

山形県の月山の南麓にある国民宿舎「月山荘」の庭で、蛾の灯火採集(20W青色+100W昼光色)を行い、18科135種を得たので記録する。

特記すべき種には、ウスキバネットガ、ヤモトマダラメイガ、ヒメナミグルマアツバなどがある。採集品はすべて保存しているが、ハマキ科の同定は川辺湛氏にお願いしたので、深謝申し上げます。また、快く電源を提供された月山荘の方にお礼いたします。

採集日：昭和60年(1985年)8月3日、19時～22時

採集地：山形県西村山郡西川町志津「月山荘」(海拔約1,000m)

### COSSIDAE ポクトウガ科

- 1 *Zeuzera multistrigata* MOORE ゴマフポクトウ 1♂ 他に数個体飛来.

### TORTRICIDAE ハマキガ科

- 1 *Ptycholoma imitator* (WALSINGHAM) アミメキロハマキ 2♂ 他に多数が飛来.

- 2 *Hedya dimidiata* (CLERCK) シロモンヒメハマキ 1♂

- 3 *Endothenia banausopis* (MEYRICK) ツマジロヒメハマキ 1♀

- 4 *Spilonota ocellana* (DENIS and SCHIFFERMÜLLER) リンゴシロヒメハマキ 1♀

- 5 *Zeiraphera demurata* (WALSINGHAM) シロマルモンヒメハマキ 2♂

- 6 *Epiblema pryerana* (WALSINGHAM) ブライヤヒメハマキ 1♂

- 7 *Grapholita pavonata* WALSINGHAM ミドリバエヒメハマキ 1♂ 本州中部山地で知られる日本固有種.

### ZYGAENIDAE マダラガ科

- 1 *Chalcosia remota* (WALKER) シロシタホタルガ 3♂ 約10個体が飛来.

### LIMACODIDAE イラガ科

- 1 *Kitanola uncula* (STAUDINGER) マダライラガ 1♀ 2♂

- 2 *Mediocampa speciosa* (INOUE) クロマダライラガ 1♀

- 3 *Phrixolepia sericea* BUTLER アカイラガ 2♀ 2♂

- 4 *Austrapoda dentata* (OBERTHÜR) ウスムラサキイラガ 5♀ 1♂ 他に数個体飛来.

- 5 *Latoia sinica* (MOORE) クロシタアオイラガ 1♀

### THYRIDIDAE マドガ科

- 1 *Pyrinioides aureus* BUTLER ハスオビマドガ 5♀ 1♂ 他に多数が飛来.

### PYRARIDIDAE メイガ科

- 1 *Chrysoteuchia diplogramma* (ZELLER) ウスクロスジツトガ 1♀ 2♂

1987年1月

寄せ蛾記49号

- 2 *Ch. pseudodiplogramma* (OKANO) ウスキバネットガ 1♂ (交尾器を検鏡) 北海道、本州(東北、北陸)産の希種という。
- 3 *Piletocera sodalis* (LEECH) コガタシロモンノメイガ 3♀ 1♂
- 4 *Nacoleia maculalis* SOUTH クロフキノメイガ 1♂
- 5 *Sylepta fuscoinvalidalis* (YAMANAKA) オオツチイロノメイガ 2♀ 3♂
- 6 *S. pallidinotalis* (HAMPSON) ホソオビツチイロノメイガ 1♀ 2♂
- 7 *Palpita nigropunctalis* (BREMER) マエアカスカシノメイガ 1♀ 他に多数が飛来。
- 8 *Glyphodes quadrimaculalis* (BREMER and GREY) ヨツボシノメイガ 2♂ 多産する。
- 9 *Sinobotys obriquilinealis* INOUE ヒメセスジノメイガ 3♀ 3♂ 他に多数が飛来。
- 10 *Circobotys nycterina* BUTLER カギバノメイガ 11♀ 2♂ 多に多数が飛来。
- 11 *Bradina geminalis* CARADJA モンウスクロノメイガ 1♂
- 12 *Herpetogramma luctuosalis* (GUENÉE) モンキクロノメイガ 2♂
- 13 *Sitochroa palealis* (DENIS and SCHIFFERMÜLLER) ラクグロシロノメイガ 1♀
- 14 *Prodasynemis inornata* (BUTLER) キムジノメイガ 3♂
- 15 *Nomis albopodalis* MOTSCHULSKY ホシオヒホソノメイガ 2♀ 1♂ 他に数個体が飛来。
- 16 *Pseudebulea fentoni* BUTLER モンスカシキノメイガ 1♂
- 17 *Ostrinia zaquiaevi honshuensis* MUTUURA and MUNROE フキノメイガ 1♀
- 18 *Teliphasa amica* (BUTLER) オオフトメイガ 1♀
- 19 *T. elegans* (BUTLER) ナカアオフトメイガ 1♀
- 20 *Orthaga onerata* (BUTLER) ネアオフトメイガ 1♀
- 21 *Pyralis regalis* DENIS and SCHIFFERMÜLLER ギンモンシマメイガ
- 22 *Endotricha olivacealis* (BREMER) ウスベニトカリメイガ 3♀ 5♂ 多産する。
- 23 *Nephopterix interciselata* WILEMAN ヤマトマダラメイガ 1♀ 井上寛ほか, 1982. 日本産蛾類大図鑑によると、既知産地は宮城県以南の本州から屋久島までである。したがって、この個体は最北の記録となる。
- 24 *Ceroprepes ophthalmicalla* (CHRISTOPH) ウスマカモンクロマダラメイガ 8♀ 2♂ 他に多数が飛来している。

DREPANIDAE カギバガ科

- 1 *Nordstromia grisearia* (STAUDINGER) エゾカギバ 2♀
- 2 *Drepana curvatula* (BORKHAUSEN) オビカギバ 1♀

CYCLIDIIDAE オオカギバガ科

- 1 *Mimozethes argentilinaria* (LEECH) キンスジカギバ 2♀

THYATIRIDAE トカリバガ科

- 1 *Macrothysatira flava* (BUTLER) キマダラトカリバ 2♀
- 2 *Tethea octogesima* (BUTLER) ホソトカリバ 1♀
- 3 *T. trifolium* (ALPHÉRAKY) マエベニトカリバ 1♂
- 4 *Parapsestis umbrosa* (WILEMAN) ウスジロトカリバ 2♀ 5♂ 他に数個体飛来。
- 5 *Betapgestis takeuchii* MATSUMURA タケウチトカリバ 1♀

GEOMETRIDAE シャクガ科

- 1 *Pachyodes superans* (BUTLER) オオアヤシャク 2♀ 他に数個体飛来。
- 2 *Gelasma ambigua* (BUTLER) ツバメアオシャク 1♀
- 3 *Idaea biselata* (HUFNAGEL) ウスキヒメシャク 1♀ (交尾器を検鏡)
- 4 *I. invalida* (BUTLER) オイワケヒメシャク 1♀ (交尾器を検鏡)
- 5 *I. effusaria* (CHRISTOPH) モンウスキヒメシャク 1♀ 1♂
- 6 *Eustroma melancholicum* (BUTLER) ハガタナミシャク 1♂
- 7 *Eulithis ledereri* (BREMER) ウストビモンナミシャク 1♂

- 8 Eul. convergenata (BREMER) ヨコジマナミシャク 1♀  
 9 Euchoea nebulata (SCOPOLI) ハンノナミシャク 1♂  
 10 Asthena hamadryas INOUE マンサクシロナミシャク 1♀ 1♂ (交尾器を検鏡)  
 11 Eupithecia gigantea STAUDINGER フトオビヒメナミシャク 1♀ 1♂  
 12 Chloroclystis subcinctata PROUT ウラモンアオナミシャク 1♀  
 13 Lomographa temerata (DENIS and SCHIFFERMÜLLER) バラシロエダシャク 1♀  
 14 Cabera griseolimbata (OBERTHÜR) アトグロアミメエダシャク 3♀  
 15 Euchristophia cumulata (CHRISTOPH) ウスオビヒメエダシャク 1♀  
 16 Synechia hadassa (BUTLER) ハグルマエダシャク 1♂  
 17 Metabraxas clerica BUTLER オオシロエダシャク 1♀  
 18 Ectropis bistortata (GOEZE) フトフタオビエダシャク 4♀ 2♂  
 19 Aethalura ignobilis (BUTLER) ハンノトビスジエダシャク 1♀  
 20 Epholca arenosa (BUTLER) サラサエダシャク 1♀  
 21 Proteostrenia leda (BUTLER) シロモンクロエダシャク 7♀ すべて黄かっ色の地に  
茶色の斑紋がある個体である。他に数個体飛来。  
 22 Selenia tetralunaria (HUFNAGEL) ムラサキエダシャク 1♀  
 23 Plagodis pulveraria (LINNAEUS) コナフキエダシャク 3♀  
 24 Spilopera debilis (BUTLER) ツマトビシロエダシャク 1♀  
 25 Ourapteryx subpunctaria LEECH ヒメツバメエダシャク 6♀ 他に数個体飛来。

## EPIPLEMIDAE フタオカ科

- 1 Epiplema styx (BUTLER) クロフタオ 3♀

## LASIOCAMPIDAE カレハガ科

- 1 Philudoria potatoria (LINNAEUS) ヨシカレハ 2♂ 他に約10個体飛来。

## BOMBYCIDAE カイコガ科

- 1 Bombyx mandarina (MOORE) クワコ 1♀ 他に3個体飛来.  
 2 Oberthueria falcigera (BUTLER) オオクワゴモドキ 1♂

## SPHINGIDAE スズメガ科

- 1 Meganoton scribae (AUSTAUT) エゾシモフリスズメ 1♂  
 (スズメガ科の蛾は、本種の他に数種飛来したが、採集しなかったし、記録しておくことを失念してしまった。)

## NOTODONTIDAE シャチホコガ科

- 1 Quadricalcarifera punctatella (MOTSCHULSKY) プナアオシャチホコ 1♀  
 2 Cnethodonta grisescens STAUDINGER バイバラシロシャチホコ 1♂  
 3 Fentonia ocyptete (BREMER) ホソバシャチホコ 1♂  
 4 Nerice bipartita BUTLER ナカスジシャチホコ 1♀ 1♂  
 5 Rabtala cristata (BUTLER) セダカシャチホコ 1♀ 1♂ 他に数個体飛来。  
 6 Notodonta albicosta (MATSUMURA) マエジロシャチホコ 3♂  
 7 Peridea moltrechti (OBERTHÜR) マルモンシャチホコ 2♀  
 8 Suzukiana cinerea (BUTLER) スズキシャチホコ 1♀ 1♂  
 9 Drymonia japonica (WILEMAN) コトビモンシャチホコ 1♂  
 10 Semidonta biloba (OBERTHÜR) カエテシャチホコ 1♀  
 11 Microphalera grisea BUTLER ハイイロシャチホコ 1♀ 1♂  
 12 Spatialia jezoensis WILEMAN and SOUTH エゾキンモンシャチホコ 1♀ 2♂ ♂

## LYMANTRIIDAE ドクガ科

- 1 Euproctis similis (FUESSLY) モンシロドクガ 2♀ 他に数個体飛来.

1987年1月

ARCTIIDAE ヒトリガ科

寄せ蛾記49号

- 1 Eilema deplana (ESPER) ムジホソバ 1♂
- 2 E. nankingica (DANIEL) ニセキマエホソバ 1♀
- 3 Agylla gigantea (OBERTHÜR) キベリネスミホソバ 2♀ 1♂
- 4 Bizonia hamata WALKER アカスジシロコケガ 1♂
- 5 Miltochrista miniata (FORSTER) ベニヘリコケガ 1♂
- 6 M. pulchera BUTLER ゴマダラベニコケガ 2♀
- 7 Rhyprioides nebulosus BUTLER ベニシタヒトリ 1♀ 1♂

## NOCTUIDAE ヤガ科

- 1 Anacronicta nitida (BUTLER) ウスベリケンモン 1♂
- 2 A. plumbea (BUTLER) ナマリケンモン 1♀
- 3 Colocasia jezoensis (MATSUMURA) ネグロケンモン 1♀
- 4 Moma alpium (OSBECK) ゴマケンモン 1♀
- 5 M. fulvicollis (LATTIN) キクビゴマケンモン 1♀
- 6 Craniophora praeclarata (GRAESER) ニッコウケンモン 1♂
- 7 C. jankowskii (OBERTHÜR) クロフケンモン 4♀ 3♂
- 8 Stenoloba sp. キノコヨトウの1種 1♂。この属については、SUGI (1970) が♂の交尾器を図示しているが、当該文献が見あたらないので、交尾器を検鏡していない。採集個体は開張24mmで S. assimilis アオキノコヨトウとよく似た班紋を呈するが、胸背に黒色のリン片塊が発達している。S. manleyi ウンモンキノコヨトウにも似ている。
- 9 Agrotis segetum (DENIS and SCHIFFERMÜLLER) カブラヤガ 1♀
- 10 Aletia flavostigma (BREMER) マダラキヨトウ 1♂
- 11 Blepharita melanodonta (HAMPSON) オオハカタヨトウ 1♂
- 12 Apamea lateritia (HUFNAGEL) オオアカヨトウ 1♂
- 13 Euplexia illustrata GRASER シラオビアカカネヨトウ 1♂
- 14 Axylia putris (LINNAEUS) モクメヨトウ 1♂
- 15 Trachea tokiensis (BUTLER) ハカタアオヨトウ 1♂
- 16 Athetis lineosa (MOORE) シロモンオビヨトウ 2♀
- 17 Allocosmia coreana (MATSUMURA) ツマモンキリガ 1♀
- 18 Chasminodes bremeri SUGI and KONONENKO ニセハルタギンガ 3♂
- 19 Ch. sugii KONONENKO クロハナギンガ 2♂
- 20 Ch. aino SUGI アイノクロハナギンガ 6♀
- 21 Ch. unipuncta SUGI ヒメキンガ 2♂
- 22 Ch. nervosa (BUTLER) ウラギンガ 2♀ 6♂
- 23 Callopistria juventina (STOLL) ムラサキツマキリヨトウ 1♀
- 24 Eutelia grabczewskii PÜNGELER ニッコウフサヤガ 1♂
- 25 Lithacodia numisma (STAUDINGER) キモンコヤガ 2♀
- 26 L. brunnea (LEECH) トビモンコヤガ 3 exs.
- 27 L. stygiodes (SUGI) ニセシロフコヤガ 3♂
- 28 L. falsa (BUTLER) スジシロコヤガ 1♀ 1♂
- 29 Bryophilina mollicula (GRAESER) ウスアオモンコヤガ 1♂
- 30 Catocala dula BREMER オニベニシタバ 2♂
- 31 C. nubila BUTLER ゴマシオシタバ 2 exs.
- 32 Sypnoides hercules (BUTLER) アヤシラフクチバ 1♂
- 33 Polysciera manleyi (LEECH) マンレイツマキリアツバ 1♂
- 34 Gonepatica opalina (BUTLER) フタスジエグリアツバ 2♀ 1♂
- 35 Anatatha misae SUGI ヒメナミグルマツバ 1♀。山形県では飯豊の1♂が記録されて
- 36 Hypena tatorhina BUTLER ヒトスジアツバ 1♀ いる。
- 37 Paracolax albnotinata (BUTLER) シロモンアツバ 1♀
- 38 Paracolax pryeri (BUTLER) シロテンムラサキアツバ 1♀

( いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町2-7-11 )

## 鳩山町の8月の蝶

松田 幸弘

筆者は1986年8月、比企郡鳩山町地内において数回の調査にわたり、以下の蝶を確認しているので報告します。

なお、記録中の各記号はそれぞれ ①・・新鮮 ②・・汚損度中位 ●・・汚損 とし、汚損度記号のみ付した種については至近距離による観察例であり、性別が加えてある種についてはネットを使用した。また、観察した時間帯はすべて午後であり、1時～5時までの間、断続的に実施し外気温は午後3時測定、湿度は日平均とした。(採集品なし)

1986年8月7日 晴 鳩山町小用地区 (午後3時～4時 31.4°C 64%)

ミスジチョウ	1(①)	ゴマダラチョウ	1(①)
オオムラサキ	1♂1♀(①)	キタテハ	1(①)
ヒメジャノメ	多數	クロヒカゲ	多數

1986年8月8日 晴 町内各地 (午後1時～5時 26.4°C 83%)

### 《泉井地区》

ヤマトシジミ	1(①)	キタテハ	1(②)
ゴマダラチョウ	2(①②)	オオムラサキ	1♀(②)
イチモンジセセリ	多數		

### 《高野倉地区》

アゲハ	1♂1♀(①●)	キアゲハ	1♂3♀(①②)
モンキチョウ	1(②)	スジグロシロチョウ	1(②)

### 《小用地区》

クロアゲハ	1(②)	ヤマトシジミ	1(①)
ゴマダラチョウ	2(②)	オオムラサキ	2♀(②●)
ヒカゲチョウ	3(①～●)	クロヒカゲ	2(①②)
イチモンジセセリ	1(②)		

### 《熊井地区》

コミスジ	3(①②)	キタテハ	1(②)
ヒメアカタテハ	1(①)	ゴマダラチョウ	6(①～②)
オオムラサキ	3♂2♀(②～●)		

1987年1月

寄せ蛾記49号

1986年8月12日 晴 鳩山町小用・熊井地区 (午後2時~4時 30.6°C 78%)

《小用地区》

ルリタテハ	1(●)	オオムラサキ	1♀(◎)
ヒメウラナミジャノメ	1(○)		

《熊井地区》

キタテハ	2(○)	ルリタテハ	1(◎)
ゴマダラチョウ	2(◎)	ジャノメチョウ	1(○)
ヒメジャノメ	1(○)		

1986年8月13日 晴 鳩山町赤沼地区 (午後2時~3時 31.4°C 76%)

キアゲハ	3(○◎)	モンキアゲハ	1(○) 初記録
ジャコウアゲハ	1(●)	モンシロチョウ	多數
モンキチョウ	♂♀多數	スジグロシロチョウ	多數
キチョウ	若干	ゴマダラチョウ	1(○)
オオムラサキ	1♂1♀(○●)	サトキマダラヒカゲ	6(○○)
ヒメジャノメ	2(○●)	コジャノメ	2(○)

1986年8月15日 晴 鳩山町小用地区 (午後1時~5時 29.4°C 78%)

ゴイシシジミ	8(○○)	キタテハ	1(○)
オオムラサキ	1♀(○)	クロヒカゲ	1(○)
サトキマダラヒカゲ	7(○○)	ダイミョウセセリ	1(○)

1986年8月24日 晴 鳩山町小用地区 (午後2時~4時 26.4°C 73%)

キアゲハ	1(○)	モンシロチョウ	若干
スジグロシロチョウ	若干	キチョウ	2♂1♀(○)
ベニシジミ	1(○)	ヤマトシジミ	多數
ルリシジミ	若干	ウラギンシジミ	1♂(○)
イチモンジチョウ	1♂1♀(○)	アサマイチモンジ	1♀(○)
ミスジチョウ	1♂1♀(○)	ゴマダラチョウ	1
オオムラサキ	1♀(○)	ヒメジャノメ	若干
ヒメウラナミジャノメ	若干	コジャノメ	若干
ジャノメチョウ	1♀(●)	サトキマダラヒカゲ	多數
ヒカゲチョウ	多數	クロヒカゲ	若干
スジグロチャバネセセリ	1♂(○)	イチモンジセセリ	1♀(○)

1986年8月25日 晴 鳩山町小用地区 (午後2時～4時 30.7°C 73%)

アオスジアゲハ	1(◎)	キアゲハ	4
アゲハ	2	スジグロシロチョウ	若干
キチョウ	若干	ベニシジミ	1♀(◎)
ヤマトシジミ	多数	ウラナミシジミ	1(○)
コミスジ	1♂1♀(◎○)	ミスジチョウ	1♂(●)
キタテハ	1(○)	オオムラサキ	1♀(○)
ウラギンスジヒョウモン	1(◎)	ジャノメチョウ	1♀(●)
サトキマダラヒカゲ	多数	ヒカゲチョウ	多数
クロヒカゲ	若干	ヒメジャノメ	多数
ヒメウラナミジャノメ	多数	コジャノメ	多数
スジグロチャバネセセリ	1♂(○)		

( まつだ ゆきひろ 画350-03 埼玉県比企郡鳩山町大字今宿297 )

## アサギマダラの目撃例と一考察（都幾川村）

松田 幸弘

筆者は、比企郡都幾川村において、この地方では目撃・採集例と数少ないと思われるアサギマダラを目撃しているので報告すると共に、同地周辺における本種の生態等を考えてみたい。

- ・目撃日時 1986年8月9日(土) 午前10時45分(曇天でむし暑く、霧がたちこめていた。)
- ・目撃場所 比企郡都幾川村大字大野地内。林道久保向線(標高270m)地点

### ～その後の調査から～

本種を目撃した地点は、周辺でも個体数の多い丸山、県民の森、付近とは奥武蔵グリーンラインを隔てた東側斜面の下部にあたり、或はそれらの地からの飛来個体とも考えられる。また、埼玉県動物誌による、堂平山、白石峠、定峰峠、二本木峠、などでの採集例はいずれも目撃地点を取り囲む山地帯であり、奥武蔵山系においては時期的なものとはいえ、その生息については実証されつつある。

本種の食草は、一応ガガイモ科の常緑植物キジョランとされているが、同科のイケマ、カモメヅル類など数種も例外ではなく、これらは生息環境と植生との関係に微妙に影響してくると思われ一概に把握しにくい。筆者のその後の調査では、周辺におけるイケマなどからは卵、幼虫、食痕などは見いだしておらず、キジョランの自生も現段階では確認されていない。また、8月～10月にかけて刈場坂峠、高篠峠、白石峠、堂平山、丸山と出向いたが、成虫は1頭も発見できなかった。

本種の越冬形態は非休眠幼虫とされており、冬期には枯れて葉が落ちてしまうイケマやカモメヅル類への依存度は低いものと思われるが、季節的な「わたり」を想定した場合に、これらはおそらく二次的な発生に關係してくるのではないだろうか。

昨年、宇都宮市在住の西山隆氏により本種の新たな越冬記録がインセクト(vol.36 No.1)から発表された。細部にわたる記録は別報にゆずるとされているが、それによると益子町の山地において数少ないキジョランの自生地より、2～4令幼虫約30頭を発見し、自然状態において蛹化に至るまでを追跡調査している。\*また、同氏によると、越冬形態は必ずしも幼虫ではなく産卵から寒冷期をむかえるまでのサイクルの問題であるといわれ、各ステージによる越冬形態が考えられるが蛹化における越冬ではほぼ死滅し、2～4令幼虫においては最も耐寒性をもつということである。

興味深いことは極めて局所的な越冬地に思えるが、今年の現時点(1986年夏)ではまだ越冬の確認がされてないということである。移動の意義や、分布の北上についてはいろいろ論議されているが、「本来の土着地」以外ではキジョランの自生地であっても、産卵行為は流動的なのであろうか。

\* 1984-X-28(2～4令幼虫)～1985-V-28～30(羽化)

(まつだ ゆきひろ 画350-03 埼玉県比企郡鳩山町大字今宿297)

## 幸手町の蝶に関する研究について

長須 房次郎

幸手町の蝶に関する研究が、1967年に、幸手中学校生物クラブ3年 岡田浩平、早川秀司、田中嘉一、江森敦夫の4名の調査でまとめられ発表されている。\*

この研究は、「幸手町のチョウについての研究」のテーマでまとめられ、標本は、昭和42年度埼葛地区科学展覧会に出品され、引き続き行われた埼玉県の中央展にも出品された。

この研究にあたっては、当時、筆者が生物クラブの顧問をしていた関係で、採集品の同定にあたったが、同定に自信のなかった種については、幸手町在住の故佐々木啓祐先生の指導をいただいた。

ここでは、この研究の一部；幸手町の蝶類の目録・成虫出現期を紹介することにする。

### ・・・・・ 幸手町の蝶類の目録(成虫出現期) ・・・・・

#### セセリチョウ科

1. ギンイチモンジセセリ 4中～?(春型) / 7下～?(夏型)
2. コチャバネセセリ
3. キマダラセセリ 6～7(春型) / 8～9(夏型)
4. オオチャバネセセリ 6中～7下(第1化) / 8～10(第2、3化)
5. チャバネセセリ
6. イチモンジセセリ 6中～?(第1化) / 8中～10(第2、3化)

#### アゲハチョウ科

7. ジャコウアゲハ 4下～5(春型)
8. アオスジアゲハ 5上～5下(第1化) / 6下～7下(第2化) / 8中～9中(第3化)
9. キアゲハ 4上～10上(3～4回)
10. アゲハ 4上～9中(連続的に4～5回)
11. クロアゲハ 4下(春型) / 6中～10上(夏型3回)
12. カラスアゲハ

## シロチョウ科

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 13.キチョウ      | 5下～11中(5回)   |
| 14.ツマグロキチョウ  | 7上～9中(連続的)   |
| 15.モンキチョウ    | 3上～11下(連続的)  |
| 16.ツマキチョウ    | 4上～5上(年1回)   |
| 17.モンンシロチョウ  | 3上～11中(5～6回) |
| 18.スジグロシロチョウ | 3上～11中(5～6回) |

## シジミチョウ科

- |            |                            |
|------------|----------------------------|
| 19.ミドリシジミ  | 6中～7中(年1回)                 |
| 20.トラフシジミ  | ♂ 幸手町上吉羽 1966-VII-31 関誠(採) |
| 21.ベニシジミ   | 3中～11中(年4回)                |
| 22.ゴイシシジミ  | 5下～10中(数回)                 |
| 23.ウラナミシジミ |                            |
| 24.ヤマトシジミ  | 4中～11中(連続的)                |
| 25.ルリシジミ   | 3中～11(連続的)                 |
| 26.ツバメシジミ  | 4中～10上(連続的)                |

## タテハチョウ科

- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 27.イチモンジチョウ | 5中～6上(第1化) / 7下～?(第2化)   |
| 28.アサマイチモンジ | 6～9(年3回)                 |
| 29.コミスジ     | 4下～5中(第1化) / 7中～8上(第2化)  |
| 30.キタテハ     | 6上～9上(夏型) / 9上中～11下(晚秋型) |
| 31.ルリタテハ    | 6中～8                     |
| 32.ヒオドシチョウ  | 6中～6下(年1回)               |
| 33.ヒメアカタテハ  | 6～11中                    |
| 34.アカタテハ    | 6下～10(年3回)               |
| 35.コムラサキ    | 6(第1化) / 7中～9上(第2化)      |
| 36.ゴマダラチョウ  | 5中～6上(春型) / 6下～9下(2回夏型)  |
| 37.オオムラサキ   | ♂ 八代地区 1964.             |

## ジャノメチョウ科

- |               |            |
|---------------|------------|
| 38.ヒメウラナミジャノメ | 4上～10(年3回) |
| 39.ヒカゲチョウ     |            |

40. キマダラヒカゲ

本種は、サトキマダラヒカゲとヤマキマダラヒカゲとに分離された。両種の分布状態から推察して、ここにあげたキマダラヒカゲはサトキマダラヒカゲと考えられる。<sup>2</sup>

41. ヒメジャノメ

5下～10

上記41種のほか、目撲記録として、ミズイロオナガシジミ(幸手町中川崎、1964-VI-28)ウラギンシジミ(幸手町北1丁目にて2例)、ジャノメチョウ(町内各地)の3種があげられている。これらは、採集例がないので、目録には入れられていない。

この研究は、1964(昭和39年)年から3年余りにわたって、岡田浩平君ら4名によって調査されたもののまとめである。しかし、現在標本は保存されていないので残念である。

#### 《参考文献》

- 1) 埼葛の科学編集委員会・埼葛教育事務所(1967) 埼葛の科学 第3号  
——昭和42年度埼葛地区科学展覧会から——
- 2) 市川和夫・原聖樹(1978) 埼玉県の蝶類、埼玉県動物誌.埼玉県教育委員会

(ながす ふさじろう 画340-01 北葛飾郡幸手町中4-9-27)

# 埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔1〕

小田 博

埼玉県のハネカクシに関する記録はきわめて乏しく、まとまった報文としては、わずかに『埼玉県動物誌』(45種を記録)があるにすぎない。そこで、筆者は本県のハネカクシ相について多少なりとも明らかにできればと思い、さしあたり手持ちの標本をもとに同定の完了したものから、以下に報告する (\*印は『埼玉県動物誌』に未記録の種)。

なお、同定に際して特に参照した文献はその旨注記し、筆者による採集品は採集者名を記さなかった。配列は柴田泰利氏『日本産ハネカクシ科目録(I-V)』に従った。報告にあたり、文献等でお世話いただいた柴田泰利氏に厚くお礼申し上げます。

## 《ヒラタハネカクシ亜科 PESTINAE》

1. \*オサシテムシモドキ *Apatetica princeps* (SHARP, 1874)  
【秩父郡荒川村】白久・鹿の湯付近、3頭、9. viii. 1982 [倒溝].  
【秩父郡横瀬町】二子山、6頭、4. vii. 1983 [叩き網採集].
2. \*シラオビシデムシモドキ *Nodynus leucofasciatus* LEWIS, 1879  
【秩父郡横瀬町】二子山、1頭、8. v. 1982 [石下].
3. \*ヒラタハネカクシ *Siagonium vittatum* FAUVEL, 1875  
【秩父郡横瀬町】丸山、22頭、27. i. 1985 [倒木樹皮下]; 二子山、2頭、24. iii. 1985 [倒木樹皮下].  
【富士見市】上沢3丁目、7頭、29. xii. 1985 [伐採木樹皮下]; 7頭、2. ii. 1986 [伐採木樹皮下]; 3頭、27. iv. 1986 [伐採木樹皮下].
4. オオヒラタハネカクシ *Piestaneus lewisi* SHARP, 1889  
【秩父郡横瀬町】丸山、31頭、27. i. 1985 [倒木樹皮下].  
【秩父市】武甲山、1頭、3. xi. 1985 [倒木樹皮下].
5. \*チビホソハネカクシ *Lispinus impressicollis longulus* SHARP, 1874  
【秩父郡横瀬町】二子山、5頭、20. viii. 1986 [倒木樹皮下]; 4頭、23. ix. 1986 [倒木樹皮下].
6. \*オオウスバハネカクシ *Eleusis coaretata* SHARP, 1889  
【秩父郡荒川村】日野字下日野、1頭、23. iv. 1984 [朽木樹皮下].  
【秩父郡大滝村】入川渓谷、1頭、10. viii. 1986 [朽木樹皮下].  
【秩父郡横瀬町】二子山、18頭、20. viii. 1986 [倒木樹皮下]; 6頭、23. ix. 1986 [倒木樹皮下].
7. \*クロツヤハネカクシ *Priochirus japonicus* SHARP, 1889  
【秩父郡荒川村】若御子山、12頭、13. v. 1985 [倒木樹皮下]; 熊倉山、4頭、17. vi. 1985 [倒木樹皮下]; 1頭、5. v. 1986 [倒木樹皮下].  
【秩父郡大滝村】川又、1頭、10. viii. 1986 [朽木内].  
【秩父市】武甲山、5頭、3. xi. 1985 [倒木樹皮下].  
【秩父郡横瀬町】二子山、5頭、20. viii. 1986 [倒木樹皮下].

## 《ヨツメハネカクシ亞科 OMALIINAE》

8. \*セミゾヨツメハネカクシ *Omalium japonicum* SHARP, 1874  
 【入間郡三芳町】上富, 2頭, b. v. 1984 [腐植質].  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 22. iv. 1985 [糞].
9. \*ヒラタヨツメハネカクシ *Phloeostiba plana* (PAKKULL, 1792)  
 【秩父郡大滝村】入川林道, 2頭, 11. vi. 1984 [朽木下].  
 ◆参照文献: 渡辺泰明, 1964, 山形昆虫同好会会誌, 2(1):1-3.
10. \*アロウヨツメハネカクシ *Olephrum arrowi* SCHEERPELTZ, 1929  
 【富士見市】水子, 3頭, 5. iv. 1981 [湿地]; 1頭, 29. x. 1984 [湿地].  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 4頭, 25. x. 1982 [落葉下]; 1頭, 23. x. 1982 [枯葉下]; 2頭, 28. x. 1985 [枯草下].
11. \*クロミズギワヨツメハネカクシ *Psephenoides caliginosus* (SHARP, 1889)  
 【秩父市】橋立渓谷, 2頭, 15. v. 1983 [溪流際石下].
12. \*ミズギワヨツメハネカクシ *Psephenoides lestevoides* (SHARP, 1889)  
 【秩父市】橋立渓谷, 3頭, 15. v. 1983 [溪流際石下]; 1頭, 12. v. 1984 [溪流際石下].

## 《ヒゲナガミズギワハネカクシ亞科 PHLOEOCHARINAE》

13. \*ヒゲナガミズギワハネカクシ *Berops longicornis* (SHARP, 1889)  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1♂ 2♀, 4. vii. 1983 [溪流際落葉下].  
 【秩父郡大滝村】秩父湖, 2♂ 3♀, 14. vii. 1983 [溪流際落葉下].  
 【秩父市】橋立渓谷, 1♀, 12. v. 1984 [溪流際落葉下]; 2♂ 1♀, 29. iv. 1985 [溪流際落葉下].  
 ◆参照文献: 直海俊一郎, 1986, 昆虫と自然, 21(8):17-22. (本属はシリホソハネカクシ亞科に移すのが妥当のようであるが, 今は従来の措置に従う).

## 《セスジハネカクシ亞科 OXYTELINAE》

14. ハラビロハネカクシ *Deleaster yokoyamai* ADACHI, 1935  
 【秩父郡荒川村】白久, 1頭, 9. v. 1983 [溪流際落葉下].  
 【秩父郡大滝村】入川渓谷, 2頭, 26. vii. 1983 [溪流際石下].
15. \*セミゾキノカワハネカクシ *Coprophilus impressus* SHARP, 1889  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 2頭, 26. vii. 1984 [叩き網採集].
16. \*ツマグロカワベハネカクシ *Bledius lucidus* SHARP, 1874  
 【入間郡大井町】苗間, 4頭, 29. viii. 1981 [街灯]; 1頭, 9. ix. 1981 [街灯]; 大井・弁天の森, 1頭, 30. viii. 1982 [街灯]; 1頭, 31. viii. 1982 [街灯].
17. \*ヒゲナガヨコセミゾハネカクシ *Ochthephilus japonicus* (Y. WATANABE et Y. SHIBATA, 1961)  
 【秩父市】橋立渓谷, 2頭, 15. v. 1983 [溪流際石下]; 7頭, 12. v. 1984 [溪流際石下].  
 ◆参照文献: WATANABE, Y. & Y. SHIBATA, 1961, 農学集報, 7(1):6-9.  
 [No. 18も同じ]

18. \*ツヤヨコセミゾハネカクシ *Ochthephilus laevis* (Y. WATANABE et Y. SHIBATA, 1961)  
 【秩父市】橋立渓谷, 4頭, 15. v. 1983 [渓流際石下]; 1頭, 12. v. 1984 [渓流際石下].
19. \*ユミセミゾハネカクシ *Thinodromus sericatus* (SHARP, 1889)  
 【秩父郡荒川村】日野字下日野・荒川河原, 4頭, 18. ix. 1983 [石下]; 3頭, 23. iv. 1984 [砂地]; 白久・荒川河原, 5頭, 5. viii. 1984 [石下].
20. \*ニセユミセミゾハネカクシ *Carpelimus vagus* (SHARP, 1889)  
 【入間郡大井町】苗間, 1頭, 19. viii. 1981 [街灯]; 3頭, 21. viii. 1981 [街灯]; 2頭, 29. viii. 1981 [街灯]; 大井・弁天の森, 3頭, 30. viii. 1982 [街灯].  
 【大里郡寄居町】立ヶ瀬・荒川河原, 6頭, 15. ix. 1981.
21. \*クロヒメカワベハネカクシ *Platystethus operosus* SHARP, 1874  
 【入間郡大井町】大井字東原, 3頭, 13. ix. 1981 [枯草下]; 3頭, 4. x. 1981 [腐植質]; 1頭, 6. x. 1981 [腐植質]; 1頭, 12. v. 1983 [腐植質]; 1頭, 4. v. 1986 [腐植質].  
 【入間郡三芳町】上富, 1頭, 16. vi. 1985 [多孔菌].  
 【富士見市】上沢3丁目, 11頭, 3. x. 1982 [畑地]; 1頭, 3. x. 1983.  
 【比企郡小川町】下里三区, 1頭, 14. iv. 1985 [ゴム科幼虫の死体].
22. \*アカセスジハネカクシ *Oxytelus incisus* MOTSCHULSKY, 1857  
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 19. viii. 1981 [街灯]; 1頭, 21. viii. 1981 [街灯]; 1頭, 29. viii. 1981 [街灯]; 5頭, 20. ix. 1981 [街灯]; 大井字東原, 1頭, 29. ix. 1981 [腐植質]; 大井・弁天の森, 4頭, 21. ix. 1981 [腐植質]; 1頭, 30. ix. 1982 [街灯]; 1頭, 31. vii. 1983 [街灯]; 1頭, 22. vi. 1985 [街灯].  
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 2頭, 17. x. 1983 [腐植質].
23. \*セスジハネカクシ *Anotylus cognatus* SHARP, 1874  
 【入間郡大井町】大井字東原, 4頭, 22. v. 1982 [腐植質]; 1頭, 12. v. 1983 [腐植質]; 大井・弁天の森, 2頭, 22. iv. 1985 [糞].  
 【入間郡越生町】高取山, 1頭, 6. iv. 1984 [糞].  
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 6. v. 1984 [腐植質].  
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 22. iv. 1984 [糞]; 1頭, 29. iv. 1984 [糞]; 鶴瀬西3丁目, 1頭, 26. ii. 1985 [糞].
24. \*ヒゲブトセスジハネカクシ *Anotylus crassicornis* (SHARP, 1874)  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 22. ix. 1981 [腐植質].
- 《オオキバハネカクシ亞科 OXYPORINAE》
25. \*アカバオオキバハネカクシ *Oxyporus maculiventris* SHARP, 1889  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 7頭, 1. x. 1984 [軟質キノコ].  
 【秩父郡東秩父村】大霧山, 1頭, 14. x. 1984 [軟質キノコ].  
 ◆参照文献 NAKANE, T. & K. SAWADA, 1956, Sci. Rep. Saikyo Univ., 2(2):A 116-126 [No. 26-28も同じ].
26. \*ヒメオオキバハネカクシ *Oxyporus basicornis* CAMERON, 1930  
 【秩父郡大滝村】大血川, 4頭, 27. viii. 1983 [カラゲ?].

27. \*オオズオオキバハネカクシ *Oxyporus parcus* SHARP, 1889  
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 14頭, 1. x. 1985 [二枚リタケ?]; 6頭, 10. x. 1985 [二枚リタケ?].
28. \*トゲムネオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus biguttatus* (SHARP, 1889)  
 【秩父郡大滝村】秩父御岳山, 1♀, 20. x. 1985 [シジ?].

## 《メダカハネカクシ亞科 STENINAE》

29. ホソフタホシメダカハネカクシ *Stenus (Stenus) alienus* SHARP, 1874  
 【大里郡寄居町】立ヶ瀬・荒川河原, 2頭, 15. xi. 1981.  
 【浦和市】秋ヶ瀬公園, 8頭, 23. ix. 1981 [湿地]; 13頭, [湿地].  
 【秩父郡荒川村】白久・鹿の湯付近, 1頭, 9. viii. 1982 [側溝:小田晶採集];  
 白久・荒川河原, 5頭, 7. viii. 1984.  
 【秩父郡大滝村】秩父湖, 2頭, 14. vii. 1983 [砂利道]; 三峰山, 1頭,  
 30. vi. 1984 [腐植質].  
 【富士見市】上沢3丁目, 2頭, 2. viii. 1983.  
 【比企郡小川町】下里三区, 2頭, 14. iv. 1985.
30. \*スジクロメダカハネカクシ *Stenus (Stenus) anthracinus* SHARP, 1889  
 【秩父郡大滝村】入川渓谷, 1頭, 26. vii. 1983 [溪流際石下]; 1頭, 11.  
 vi. 1984 [溪流際石下]; 3頭, 10. viii. 1986 [溪流際石下]; 川又, 1頭,  
 24. viii. 1985 [溪流際石下].  
 【秩父郡荒川村】白久・荒川河原, 1頭, 18. ix. 1983 [石下].

31. \*ルイスメダカハネカクシ *Stenus (Stenus) lewisi* SHARP, 1874  
 【浦和市】秋ヶ瀬公園, 1頭, 23. ix. 1981 [湿地].

32. アシマグラメダカハネカクシ *Stenus (Hypostenus) cicindeloides*  
 (SCHALLER, 1783)  
 【富士見市】水子, 1頭, 29. vii. 1982 [湿地].  
 【比企郡小川町】菖蒲沢沼, 7頭, 14. iv. 1985 [湿地].

## 《アリガタハネカクシ亞科 PAEDERINAE》

33. アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes* CURTIS, 1823-40  
 【入間郡大井町】苗間, 1頭, 7. ix. 1980 [街灯]; 1頭, 18. ix. 1981  
 [街灯]; 大井字東原, 1頭, 9. xii. 1985 [腐植質].  
 【大里郡寄居町】立ヶ瀬・荒川河原, 1頭, 15. xi. 1981.  
 【所沢市】堀之内, 2頭, 3. ix. 1983 [灯火: 碓井徹氏採集].
34. \*エゾアリガタハネカクシ *Paederus parallelus* WEISE, 1877  
 【秩父郡荒川村】白久・谷津川, 1頭, 20. vi. 1982 [小田晶採集]; 白久・鹿  
 の湯付近, 1頭, 9. viii. 1982 [側溝: 小田晶採集].  
 【秩父郡両神村】中尾付近, 1頭, 23. vii. 1984.
35. \*コアリガタハネカクシ *Megalopaederus lewisi* (CAMERON, 1930)  
 【秩父郡荒川村】白久・鹿の湯付近, 1♀, 9. viii. 1982 [側溝]; 熊倉山,  
 2♂, 26. vii. 1984 [叩き網採集]; 1♀, 17. vi. 1985 [山道]; 1♂, 5. v.  
 1986 [落葉下]; 若御子山, 2♂, 13. v. 1985.  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 3♀, 4. vii. 1983 [叩き網採集].

【秩父郡大滝村】川又, 1♂, 26. vii. 1983; 矢竹沢, 1♀, 11. vi. 1984  
[薪の下].

◆参照文献: WATANABE, Y., 1986, Ent. Pap. pres. Kurosawa, p.159-169.  
(雄の交尾器を検鏡した結果、すべて本種であった。『埼玉県動物誌』記載  
の *Paederus poweri* [紀伊半島に分布] もおそらく本種であろう。)

36. \*アバタコバネハネカクシ *Nazeris wallastoni* (SHARP, 1874)  
【秩父郡大滝村】三峰山・表参道, 1頭, 19. vi. 1983 [落葉下].  
【秩父郡横瀬町】二子山, 2頭, 4. vii. 1983 [落葉下].

37. オオシリグロハネカクシ *Astenus suffusus* (SHARP, 1874)  
【浦和市】秋ヶ瀬公園, 1頭, 23. ix. 1981 [湿地].  
【富士見市】水子, 1頭, 28. vii. 1982 [湿地].  
【所沢市】堀之内, 1頭, 4. ix. 1983 [腐植質].

38. \*タチケクビボソハネカクシ *Stilicopsis setigera* (SHARP, 1874)  
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 18. ix. 1982 [畑地]; 2頭, 16. ix.  
1982 [畑地]; 1頭, 23. x. 1982; 1頭, 3. x. 1983 [枯草下].  
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 17. x. 1983 [腐植質].

39. \*オオクビボソハネカクシ *Stilicoderus signatus* SHARP, 1889  
【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 12. v. 1984 [渓流際落葉下].  
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 26. vii. 1984 [落葉下].

40. \*ヤマトクビボソハネカクシ *Stilicoderus japonicus* Y. SHIBATA, 1968  
【秩父郡大滝村】矢竹沢, 1頭, 11. vi. 1984 [薪の下].  
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 5. v. 1986 [落葉下].

41. \*クビボソハネカクシ *Rugilus rufescens* (SHARP, 1874)  
【入間郡大井町】苗間, 1頭, 20. viii. 1981 [街灯]; 1頭, 21. viii. 1981  
[街灯]; 大井字東原, 1頭, 13. ix. 1981 [枯草下]; 1頭, 6. x. 1981 [腐植  
質]; 大井・弁天の森, 2頭, 13. ix. 1981 [枯草下]; 1頭, 21. ix. 1981  
[枯草下]; 2頭, 22. ix. 1981 [腐植質].  
【大里郡寄居町】立ヶ瀬・荒川河原, 1頭, 15. ix. 1981 [枯草下].

42. \*チャバネトガリハネカクシ *Medon spadiceus* SHARP, 1889  
【秩父郡大滝村】秩父湖, 1頭, 14. vii. 1983 [落葉下].  
【秩父郡横瀬町】二子山, 2頭, 28. viii. 1984 [倒木樹皮下]; 1頭, 24. iii.  
1985 [倒木樹皮下].  
【飯能市】大高山, 1頭, 4. xi. 1984 [朽木下].

43. \*チビトガリハネカクシ *Sinius debilicornis* (WOLLASTON, 1857)  
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 31. vii. 1983 [落葉下].

44. \*クロズトガリハネカクシ *Lithocharis nigriceps* KRAATZ, 1859  
【入間郡大井町】苗間, 1頭, 21. viii. 1981 [街灯]; 大井字東原, 1頭,  
13. ix. 1981 [枯草下]; 1頭, 23. x. 1982 [腐植質]; 1頭, 12. v. 1983  
[腐植質].  
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 2頭, 21. ix. 1983 [腐植質].  
【富士見市】水子, 1頭, 28. vii. 1982 [湿地枯草下]; 上沢3丁目, 1頭,  
27. iv. 1986 [伐採木樹上].

45. \*クロニセトガリハネカクシ *Achenomorphus lithocharoides* (S HARP, 1874)  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 4. vii. 1983 [落葉下].  
 【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 12. v. 1984 [渓流際落葉下].
46. \*ニセトガリハネカクシ *Isocheilus staphylinoides* (K RAATZ, 1859)  
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 17. x. 1983 [腐植質].
47. \*ヒメクビボソハネカクシ *Scopaeus currax* S HARP, 1889  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 16. x. 1982 [腐植質].
48. \*オオマルズハネカクシ *Domene crassicornis* (S HARP, 1874)  
 【秩父郡大滝村】大血川, 1頭, 31. vii. 1984 [渓流際石下].
49. \*コマルズハネカクシ *Domene curtipennis* S HARP, 1889  
 【富士見市】水子, 1頭, 26. iv. 1981; 1頭, 13. vii. 1983 [落葉下].  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 31. iii. 1983 [落葉下].  
 【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 12. v. 1984 [渓流際落葉下].
50. \*ヒゲブトナガハネカクシ *Lathrobium monilicorne* (S HARP, 1889)  
 【秩父郡大滝村】矢竹沢, 1頭, 11. vi. 1984 [薪の下].
51. キアシナガハネカクシ *Lathrobium pallipes* S HARP, 1889  
 【比企郡小川町】菖蒲沢沼, 1頭, 14. iv. 1985 [湿地].
52. \*コバネナガハネカクシ *Lathrobium pollens* S HARP, 1889  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 28. vii. 1986 [渓流際岩石の苔の下].
53. \*サキアカバナガハネカクシ *Lobrathium (Lobrathium) partitum* (S HARP, 1874)  
 【大里郡寄居町】鉢形・荒川河原, 1頭, 13. x. 1982 [石下].
- 《ナガハネカクシ亜科 XANTHOLININAE》
54. オオキバネナガハネカクシ *Xantholinus japonicus* S HARP, 1874  
 【入間郡大井町】大井字東原, 5頭, 21. ix. 1981 [腐植質].
55. キバネナガハネカクシ *Xantholinus suffusus* S HARP, 1874  
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 12. iv. 1981 [腐植質]; 1頭, 27. iv. 1986 [糞].  
 【入間郡三芳町】北永井, 2頭, 21. xi. 1983 [腐植質].
56. \*ホソガタナガハネカクシ *Xantholinus tubulus* S HARP, 1889  
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 22. iv. 1985 [石下].
57. \*ウスイロホソナガハネカクシ *Xestolinus pauper* (S HARP, 1889)  
 【秩父郡荒川村】白久・鹿の湯付近, 1頭, 9. viii. 1982 [側溝:小田晶採集].  
 【秩父郡大滝村】矢竹沢, 1頭, 11. vi. 1984 [薪の下].
58. \*ウスアカバホソハネカクシ *Othius medius* S HARP, 1874  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 3. x. 1983 [枯葉下].

## 幼虫達の旅路

星野 正博

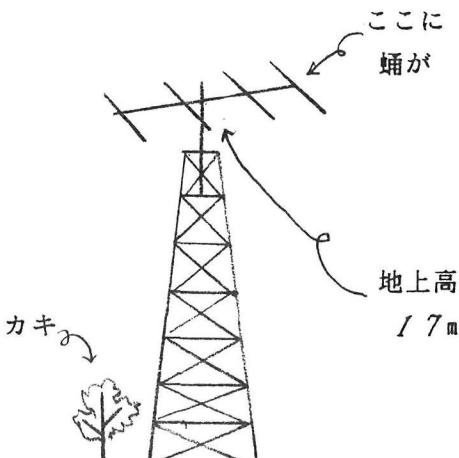
蛹を妙な場所で発見して「どこから来たんだろう、何メートルぐらい移動して來たんだろう」などと考えることがあると思います。

### その1

昨春最後の大雪で変形したハム用の大型アンテナ(短波帯用の為テレビアンテナなどと比べると超大型です)を降ろして分解したところ、アンテナのブームとエレメントの接続部(図参照)にアメリカシロヒトリらしいやや古い蛹の殻二つ発見しました。このアンテナをあげてから5年ぐらいたってはいるのでいつのものか不明ですが、よくここまでたどりついたなあと感慨無量でした。

この鉄塔の下にはカキが成長し葉が触れている部分もあり、ここから伝わってきたに違ひありません。ひたすら17メートルもはい上がり、マストから横に伸びたアルミパイプを伝わってゆく幼虫達に下の景色はどう映ったでしょうか?

ここは地上高約17メートルから横に数メートルつき出た部分で、日によっては大変な強風が吹き抜け、冬の夜大変に冷え、日中は逆に温められるはずです。はたして成虫になつたかどうか、殻が煤けていてわかりませんでした。



### その2

昨年はオオスカシバの飼育法などを書いた手前もあって、庭のクチナシを食い放題にさせておいたところ、見事に丸坊主となりコンクリートの流しの中などあちこちに蛹がごろごろ。けっこう土のないところでの蛹化がみられました。

さて、車庫内の棚には雑物がいろいろと置いてあるのですが、この春にはじのほうをよけたところ、他も似たような様子なのによほどここがいいのか、古手袋の下に3つの蛹と脱皮がらがころがっていました。屋根は半透明の波板で、冬の温度変化の激しいこの場

所で蛹の1つは乾燥していましたが、残りは6月頃に羽化して飛び去りました。

「昆虫飼育テクニック」には土を入れて湿り気を…、と書いてありますが、裸のままで丈夫なようです。

(1986年 春の観察でした。)

( ほしの まさひろ 画338 与野市下落合 561 )

■■■■■ アサヒナキマダラセセリのタチアワユキセンダングサでの吸蜜観察例 ■■■■■

田中 知之

1986年5月30日、石垣島オモト岳登山口付近で、アサヒナキマダラセセリ♂がタチアワユキセンダングサ

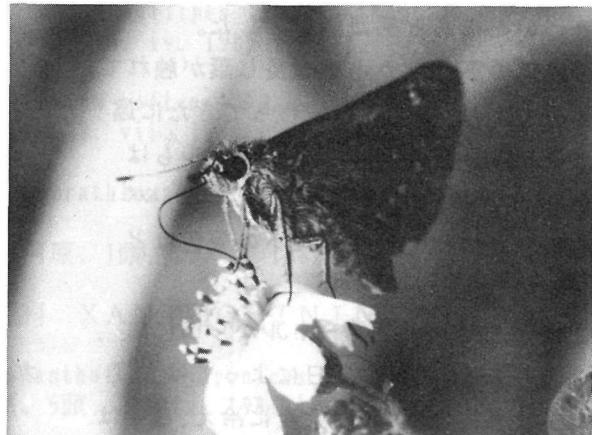
で吸蜜しているのを観察したので報告する(写真参照)。

観察時刻は午前11時30分ごろ、当日の天候は曇りであったが、尚、頂上付近では強風のためか本種は確認できなかった。

本種成虫の食餌についての観察は、筆者の文献によれば、♂のコンロンカおよび

リュウキュウヒヨドリバナ

での吸蜜例、♀の吸水例が知られているのみである。タチアワユキセンダングサは、当地において最も普通にみられる路傍の雑草である。



(たなか ともゆき 画367 本庄市小島6-5-12 教職員住宅1-301)

## 朝霞市などで採集したエンマムシの記録

沢田 和宏

筆者は1986年9月5日、朝霞市岡と志木市下宗岡でエンマムシ類を若干採集したので記録しておきたい。今回報告する6種は特に珍しい種類を含んでいる訳ではないが、埼玉県における本科甲虫の採集例は余り多くないようなので報告する次第である。

尚、筆者の見ることの出来た極くわずかの文献で、埼玉県からの記録が見当たらない種には肩部に\*印を付けておいた。もし、それらの種の記録をご存じで、ご教示いただければ大変有り難い。

### 1. クロチビエンマムシ *Carcinops pumilio* (ERICHSON)

下宗岡、5頭、鶏糞から採集したが極めて多く見られた。

### 2. チュウジョウチビエンマムシ *Binhister chujoi* COOMAN\*

岡、1頭、枯れたスギの木に生じたキノコより採集した。

### 3. ムナクボエンマムシ *Atholus pirithous* (MARSEUL)

下宗岡、3頭、鶏糞と豚糞から得た。

### 4. ツヤマルエンマムシ *Atholus pirithous* (MARSEUL)\*

岡、1頭：下宗岡、1頭、前者は野菜クズの下から、後者は鶏糞から採集した。

### 5. コツヤエンマムシ *Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus* (GYLLENHAL)

下宗岡、1頭、鶏糞。

### 6. ヒメナガエンマムシ *Plathysoma celatum* LEWIS\*

下宗岡、3頭、朽ちた広葉樹の皮下から採集した。

(さわだ かずひろ 〒158 世田谷区上用賀 6-32-5)

### 《訂正》

寄せ蛾記(46):649「宿泊談話会における蝶の記録」(加藤・林田)

報文の最初に以下の1行を付け加える。

⇒ 1985年8月11日<奥秩父>

(訂正者:加藤輝年)

## 城峰山の甲虫の記録

吉越 錦

埼玉県立上武自然公園の最高峰、城峰山(1038m)を1986年8月16~17日に訪れた際に採集した若干の甲虫を報告する。同山域は大半がスギ、ヒノキの植林で、山頂部にわずかにクリ、コナラの二次林が残存しており、大半をそこで採集した。

ハンミョウ科	ニワハンミョウ	2exs.
オサムシ科	エサキオサムシ	5exs.
	マイマイカブリ	1ex.
ゾミムシ科	Pterostichus 及び Colpodes	各2exs. (未同定)
ゾミムシダマシ科	クロナガキマワリ	2exs.
コガネムシ科	ヒメスジコガネ	1ex.
カミキリムシ科	ウスバカミキリ	1ex. (灯火に飛来)
	ホソカミキリ	1ex.
	ブチヒゲハナカミキリ	1ex.
	エグリトラカミキリ	8exs.
	ニイジマトラカミキリ	4exs.
	ウスイロトラカミキリ	3exs. (うち1ex.は上翅の白斑が消失)
	ホソトラカミキリ	1ex.
	ルリボシカミキリ	21exs.
	アカハナカミキリ	2exs.
	ヨツスジハナカミキリ	2exs.
	カタジロゴマフカミキリ	2exs.
	アトジロサビカミキリ	1ex.
	ヘリグロリンゴカミキリ	2exs.

他にクロボシヒラタシデムシとアカアシクワガタを目撃した。また、甲虫以外でエゾハサミムシも採集した。

( よしこし はじめ 〒174 東京都板橋区坂下2-11-11-415 )

1987年1月

寄せ蛾記49号

キバネセセリのイケマでの吸蜜例

加藤 輝年

1986年7月19日、秩父郡大滝村日室鉱山付近で、多数のキバネセセリ *Bibasis aquilina* がイケマ(ガガイモ科)の花で吸蜜するのを観察した。

この日は昼過ぎから中津川流域を調査していたが、本種の吸蜜が見られたのは、それまで晴天をもたらしていた太陽が山陰に隠れた16時ごろだった。イケマの花がたいへん好きなようで、30分足らずの間に、訪花したすべてと思われる♂♂1♀を採集した。♂♀とも新鮮だった。

すでに『原色日本蝶類生態図鑑(IV)』(1984、保育社)のキバネセセリの項には、北海道・栃木県・静岡県で「とくにイケマの花を好むのが見られた」と記されている。ただ、その前後の記述から、吸蜜例の多くは♀であるよう読みとられるおそれがあるが、今回の奥秩父での観察が示すように、キバネセセリは♀♂ともイケマの花がたいへん好きなようである。

(かとう てるとし 画357-02 飯能市双柳 512-3)

志賀坂峠付近の蝶

吉田 文作

1986年6月27日、群馬県中里村へ恐竜の足跡を見に行った帰り、埼玉県と群馬県の境の志賀坂峠トンネル付近(埼玉県側)で、次の蝶が確認できたので報告しておきます。

モンシロチョウ	2	モンキチョウ	4
キチョウ	1	キアゲハ	1
テングチョウ	20	アカタテハ	1
サカハチチョウ	2	コムラサキ	1
メスグロヒョウモン	1	シータテハ	1
ミスジチョウ	2	イチモンジチョウ	3
アサギマダラ	1	ベニシジミ	2
ルリシジミ	2	ヒメウラナミジャノメ	1
ダイミョウセセリ	3		

(よしだ ぶんさく 画360 熊谷市三ヶ尻2849-1)

## 「チョウの観察ノートより」 チョウ2種の産卵例

杉田 正之

オオムラサキとヒカゲチョウの産卵を観察したので報告する。

(1) オオムラサキ 1986年8月14日 天候 晴 pm.2:30

嵐山町のオオムラサキの森予定地に隣接した林縁のエノキの高さ3m程の枝先にぶらさがる様な姿勢で頭を枝先に向け3分程産み続けた。産み付けた枝は直射日光のあたらぬ下枝である。産卵数はハッキリと数えることが出来なかったが、20卵前後であると思われた。

なお別の木の葉裏の産卵されていた卵塊(19卵)はすべてハチに寄生されていた。

(2) ヒカゲチョウ 1986年9月9日 天候 曇 pm.3:00

筆者の自宅の隣の生け垣の所にあるササ(種名は不明)にゆっくり飛んでは止まり、1卵ずつ葉裏に産み付けていた。産卵位置は低位置が多く、高い所で90cm(1例)で1番多く産まれていたのは地上より15~20cm位の所であった(20卵程)。なお、あまり低い葉裏には1卵もさがせなかった。卵は1週間程で孵化し、孵化した幼虫は卵殻を食べた後に葉先に静止(頭部を葉柄に向けて)する。2例幼虫においても同様である。

(すぎたまさゆき 画355-02 比企郡嵐山町菅谷 87-3)

## 梓山の蛾8種の記録

杉田 正之

本誌No.46, pp.651-655に宿泊談話会の時に採集した蛾を市川和夫、氷室美芳の両氏が報告しているが、筆者の採集品の中に、それらには記録のない蛾が8種あるのでここに報告する。

採集場所 長野県南佐久郡川上村梓山

採集年月日 1985年8月10日(灯火採集)

(メイガ科) 1639 ワタノメイガ 1♀ 1648 マエアカスカシノメイガ 1♀

(シャクガ科) 2628 ソトシロオビナミシャク 1♂ 2649 シロオビヒメエダシャク 1♀

2672 コスジシロエダシャク 1♂

(ヒトリガ科) 3294 ハガタベニコケガ 2♂♂

1987年1月

寄せ蛾記49号

(ヤガ科) 3542 キシタミドリヤガ 1♀ 3811 シラオビアカガネヨトウ 1♂

未筆ながら同定していただいた市川和夫氏に深謝申し上げる。

(すぎた まさゆき №355-02 比企郡嵐山町菅谷 87-3)

===== キイロスズメバチの吸蜜源について =====

石澤 直也

スズメバチ類が野外で摂取する炭水化物としては、アブラムシ類の分泌する甘露、花蜜、熟果、キノコやジュース、清涼飲料水等であるが、初期巣期ではクヌギ等の樹液源はオスズメバチ *Vespa mandarinia* に独占されていることが多く、キイロスズメバチ *Vespa simillima* が樹液の餌場で目撃されることはない。

今回筆者はススキにつくススキアブラムシ *Melanaphis japonica* (TAKAHASHI) でキイロスズメバチが吸蜜しているのを観察したので報告する。

1986年6月28日 午後5時45分頃 天候 小雨 気温 19.4℃

所沢市北野の高峰地内の道端のススキに3頭のキイロスズメバチがススキアブラムシが分泌した甘露を吸蜜していた。

*Vespa* の炭水化物源としては松浦誠、山根正気『スズメバチ類の比較行動学』p.122-123 に詳しいが、ススキアブラムシについては言及していない。

(いしさわ なおや №359 所沢市山口 1644-15 )

===== 見沼たんぼの自然観察会のご案内 ===== 巣瀬 司 =====

シラサギ記念博物館の主催による「見沼たんぼの自然観察会」を、下記の通り催します。

日時：2月22日(日) 午前9時～お昼まで 《小雨決行》

集合：朝9時にシラサギ記念博物館 入り口前；参加費無料、参加自由

今回は第1回として、野鳥と越冬昆虫の観察を中心におこないます。参加希望の方は、当日9時に、当館入り口にお集まり下さい。お弁当は持参なさっても結構ですし、この日の朝、集合場所でも注文できます。9時から30分ほど観察地の概要を説明し、9:30に出発しておよそ2.5kmの道程を観察して11時半頃に博物館に戻ります。その後、博物館内のレクチャールームで昼食をとりながら観察した生き物達について語り合い、食後解散します。(問い合わせ先：№ 0488-78-2101 浦和学院高等学校 巣瀬 司)

寄せ蛾記49号

1987年1月

シラサギ記念博物館からのお願い

巣瀬 司

1986年夏の催しとして当館で行われた、埼玉昆虫談話会提供の「埼玉の昆虫特別展」および市川和夫氏による「昆虫あれこれお話し会」は好評のうちに無事終了しました。御協力・御支援ありがとうございました。

さて、当博物館は開館して1年半を経過しましたが、国内産の昆虫につきましては、所蔵標本が極めてわずかしかありません。そこで、お願いなのですが、皆様からの標本の寄贈を強く希望しています。対象となるのは、鱗翅目、甲虫、トンボ、半翅目、膜翅目など昆虫全般です。寄贈された方には、標本数に応じて標本箱を進呈いたします。

連絡先は：画337 浦和市代山172 浦和学院高等学校 巢瀬 司

☎ 0488-78-2101

(夜間のTELは 0487-73-1911)

なお、当博物館の広報誌「イグレッタ No.1」を11月に発行しました。12ページの小誌ですが、希望者には無料で配布いたします。

( すのせ つかさ 〒363 桶川市南2丁目6-13 )

アシナガバチの巣を求めています

巣瀬 司

木枯らしが木々の葉を落とし、アシナガバチの巣が見付けやすい季節となりました。「寄せ蛾記No.47」でお願いしましたが、身近な所に「アシナガバチの巣」がありましたら、お知らせ下さい。働きバチはすべて死亡し、巣の採取は安全ですし、1つの巣にはさまざまな情報がつまっています。是非よろしくお願ひ致します。

巣を採ってくださる場合には、お手数ですが、採集地、おおまかな環境、巣位置(高さ・樹種)を記録しておいていただければ幸いです。

連絡先は 夜間 : ☎ 0487-73-1911 です。

( すのせ つかさ 〒363 桶川市南2丁目6-13 )

寄せ蛾記 49号 目次

石澤 直也	：西武線沿線のカワラスズについて・・・・	752
小田 博	：宿泊談話会で採集した甲虫類の記録・・・	756
小田 博	：「埼玉県動物誌に追加する甲虫類(Ⅱ)」 [本誌(45):612-615]の訂正・・・・	758
平山 精孝	：タマノカンアオイによる ヒメギフチョウ飼育の一例・・・・	759
吉田 文作	：ギフチョウ(イエローバンド)の飼育・・・	764
原 聖樹	：川越産セセリチョウ幼虫メモ・・・・・・	766
市川 和夫	：月山々麓、8月上旬の蛾類・・・・・・	767
松田 幸弘	：鳩山町の8月の蝶・・・・・・・・	771
松田 幸弘	：アサギマダラの目撃例と一考察(都幾川村)	773
長須 房次郎	：幸手町の蝶に関する研究について・・・・	775
小田 博	：埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔1〕・・	778
星野 正博	：幼虫達の旅路・・・・・・・・	784
田中 知之	：アサヒナキマダラセセリの タチアワユキセンダングサでの吸蜜観察例	785
沢田 和宏	：朝霞市などで採集したエンマムシの記録・	786
〈訂正〉	：(訂正者:加藤輝年) .....	786
吉越 肇	：城峰山の甲虫の記録 .....	787
加藤 輝年	：キバネセセリのイケマでの吸蜜例 .....	788
吉田 文作	：志賀坂峠付近の蝶 .....	788
杉田 正之	：「チョウの観察ノートより」 チョウ2種の産卵例 .....	789
杉田 正之	：梓山の蝶8種の記録 .....	789
石澤 直也	：キイロスズメバチの吸蜜源について・・・	790
巣瀬 司	：見沼たんぼの自然観察会のご案内 .....	790
巣瀬 司	：シラサギ記念博物館からのお願い .....	791
巣瀬 司	：アシナガバチの巣を求めています .....	791
(小堀文彦)	：宿泊談話会の報告 .....	792
	金曜セミナーの報告 .....	793
	会 報 .....	795
	編集後記 .....	798